

## 循環型社会形成推進基本計画の進捗状況の第1回点検結果（素案）に対する意見

該当箇所	意見
II 1. 物質フロー指標に関する目標 (2) 評価と課題	<p>以下の記述について異論。</p> <p>○4頁(2)②            「資源生産性が減少している主な要因としては、～～大規模工事に伴う一時的な資源の投入により本指標を変動させることとなって」</p> <p>○4頁(2)⑥            「資源生産性の指標については、一時的な大規模公共事業のための土石採種が全体の ～～ 検討する必要があります。」</p> <p>○16頁V(1)            「入口」の指標である資源生産性は、～土石採取が数値を押し下げている可能性があり、</p> <p>これらの記述について、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 悪いのは指標ではなく資源大量採取型の大規模公共工事の実施。</li> <li>2. 工事をもし行うならば、「天然資源の消費を抑制し環境への負荷を低減する」方法で行われるべき。            今回の指標の変化は、当該工事がその様な方法で行われていないことを的確に表現している。</li> </ol>
II 2. 取組指標に関する目標 (1) 現状 (2) 評価と課題	<p>「循環型社会ビジネス市場の拡大」の項目で、「環境ビジネス」のデータを参照しているが、「循環型」の定義があいまいに感じる。</p> <p>建材をレンタルするビジネスも検討されている。所有からリサイクル・リユースを含めた、リース・レンタルへのシフトを積極的に推進することにより、市場規模の拡大が見込める。</p>
IV (1) 目標に係る進捗状況	<p>3つの物質フロー指標を補足するため、天然資源等投入量などの内訳（国内外別の化石系・金属系・非金属鉱物系・バイオマス系資源別の値）、廃棄物等の輸出入量についてもあわせて公表、評価すべき。</p>
IV 3. 地方公共団体 (2) 評価と課題	<p>廃棄物処理を今後10年20年にわたりどのような方針で行うのか、といった地域の未来像にかかわる根本的な決定に関わるすべてのプロセスに住民、NGOのNPOが参加できるよう、地方公共団体の在り方を改善する必要性について明記すべき。</p>

	<p>循環型社会の最終的な目的は、限りある地球の資源を大切にすること。このため、入口側の対策、すなわち発生抑制対策を十分に講ずるべき。</p> <p>例えば、各種包装材については、再生コストを考慮した上で、包材課徴金を徴収するなどの発生抑制対策が必要では。</p>
	<p>循環基本計画の中で、地球温暖化に対する視点がないことについて、政策の一貫性として疑問。</p>
	<p>(衣料のリサイクルへの提案)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自社製品の回収責任を負わせること。</li> <li>2. コンビニエンスストアやスーパーマーケット等の拠点を利用したリサイクル製品の回収ができないか。</li> </ol>